

平成21年度水道モニター最終レポート

平成21年度の水道モニターは、「水道事業概要説明会」「施設見学会（信濃川浄水場）・研修会」「施設見学会（水質管理センター）・研修会」「研修会・意見交換会」に参加いただきました。

当レポートは、この4回の活動を通じて感じたことや水道事業運営に対する提言などを、最終活動となる「意見交換会」終了後に提出いただき取りまとめたものです。

なお、文体・構成などは各水道モニターから提出いただいたものを、極力そのまま活用させていただいています。

平成22年4月

平成21年度水道モニターレポート

水道局の皆さんの努力にて、水の質が向上していると感じた。

配水場、浄水場が災害の時に重要な役目をするということを改めて認識した。

新潟にいと、水を分けることが課題だったような気がし、水不足とはあまり関係がない事のように感じる。しかしいつ何時水のありがたさが身にしみるか？やはり新潟市民には少し考えるべき内容だと感じる。

地盤のよくない新潟は、水道管や地下の管については、なかなか管理が大変な気がする。よりよい水は水質だけでなく、水道局の方の努力があるという事を多くの市民がわかること、多くの市民が水の節水に努めて資源を大切にす気持ちを持つ。人間は困らないと気がつかないことが多いが、それを伝える力を持ち続けたいと思った。

今回のモニター活動を通して、水道事業に対する理解を深めることができた。これまで少し不安に思っていた水質については、浄水の工程、検査、管理の仕組みを教えてもらい、安心感が得られた。これからも水道水を飲料水として利用したい。

新潟市の水道水は他県、特に都会の方々に自慢できる味だと思っている。

今後もペットボトルでの提供等広報活動を進めてほしい。

平成21年度の水道モニターを経験し、信濃川浄水場や水質管理センターなどの施設を見学して、新潟市水道局が「安全でおいしい水を安定して供給」する為に尽力していることがよくわかった。

また、水道料金の設定方式、他の都市との違いなどについても理解ができたと同時に、災害時の対策についても適切な対応がなされていることを聞き安心した。

今後は知り得た情報を消費者の立場で知人や友人に積極的にPRしていきたいと思っている。

今後は人口減少による消費の減少化も予想される。「安全でおいしい水を安定してより低価格で供給」する為に種々検討するとともに、多くの人たちの意見も聞き取って実行することを期待している。

なお先日提案がありました水道料金減額による工場誘致や、「柳都物語」の付加価値を上げて販売して収入増を図り、将来のコスト吸収の準備を行う等の検討実行も併せてお願いしたい。

今回は、日本海タワーの前は通っていたものの、何があるのか露知らず、いい経験だった。高さを実感した。

また当市の水道料金が政令指定都市と比較して安い方であること、そしてうまさを感じているため、うれしく思った。

参加されたみなさんもとても関心を持っていて、積極的に質問し、また懇談会では真摯に回答いただき、知識が広まった。

今後もより良い水道事業を期待している。

昭和 39 年に新潟で生まれ育ち、大人になってから初めて日本海タワーに登った。そういえば“日本海タワーの展望台”と聞いたことがあるような、懐かしい感じだった。父親に話したら幼い時分に連れて行ったことがあったようだ。新聞や市報を見ると、小・中学生の学習、見学に大いに役立っているようすである。また、南山配水場の上に日本海タワーを作るというアイディアに富んだ観光作戦だと思う。かつては近辺に新潟ビーチセンターがあったことが思い出される。昔も今も新潟市の観光都市の夢と願いは変化しないようだ。

昭和 39 年 12 月にこの地に生まれたので新潟地震は体験していないが、大変だったようだ。地震で発火、昭石新潟製油所は黒煙をあげて燃え、昭和大橋は無残にも信濃川に落ちた。(半月前に完成したばかりの橋であった。)配水管は頑丈にできているが、大きな震災がないように願っている。生活に欠かせない水、災害に備える水資源について、これからも家族と考えていこうと思う。

水に恵まれた新潟でも限りある資源。川を汚染から守り、水を大切に使うことを考え実行したい。なるべく川へはごみを捨てないように心掛けたいものである。川から取り入れた水はさまざまな過程をへて、配水管を通過してきれいな水として出る。それゆえ安心して水道の水が飲める。家庭や会社の水道水で淹れるお茶はおいしくたしなめる。

水道の節水意識は常にある。入浴後のぬるま湯を翌日、洗濯に使う。まだ温度があたたかいと汚れが良く落ち一石二鳥である。家庭内で入浴日が異なる時、入浴施設を利用することがしばしばある。同様に岩室に知人がいるので岩室温泉に行くことがよくある。平成 19 年に政令指定都市に移行し、岩室も西蒲区として新潟市に仲間入りした。近年にできた余暇・文化施設にりゅーとぴあ、みなとぴあ、朱鷺メッセ、ビッグスワンがある。水に関することは、レストラン、喫茶、トイレ等で利用している。偉大な信濃川浄水場。レストラン、食堂で出される一杯の水。コップ一杯の水は、ほとんどサービスとして出されており、非常にありがたい。新潟の水は、茶処の静岡、京都の水に負けにくいくらいおいしいと思う。

これからも暮らしの中で水道を大切に使っていきたいと思う。

準備料金について

いつでも水道を利用する為の必要経費負担の料金のこと。よく納得できる。単身世帯や老人 2 人暮らしなどの家庭は使用料が少ないと思う。家族の人数、あるいは半年間の使用料などを参考に 2 段階くらいにするようなことは考えられないか。

電気はアンペアの量によって基本料金が異なる。

一年間モニターを経験して、浄水場見学や職員の皆様からのお話を聞くことができ、大変有意義だった。

生まれて初めての浄水場見学は驚くことが沢山あった。特にハイテクに。何も考えることなくあたり前に欠くことのできない水、安心安全の水に感謝。

今回水道モニターになって、水道局の業務の全容がわかった。①水道事業経営の独立採算が原則であること。②災害に備えて、水道局ではあらゆる場面を想定して速やかに復旧できる体制の整備を進めていること。③水道料金についても、口径別料金と用途別料金があり、準備料金は使用料が0でもかかる料金であり、それに水量料金が使用水量に応じてかかること等々。

これらのことは折々の“市報や水先案内”に掲載されていると思うが、専門用語を使っていると、ほとんどの市民が読まないのので、分かりやすい言葉で広報する様にしてほしい。

水道水はライフラインの中で最も大切なもの。飲料水と水まきや雪解かし、園芸用などとは区別して使うよう普及できないものか。

また、水をまちづくりと関連して日本海タワーや青山水道遊園などの遊水施設も地域に応じて広げていき、大人も子供も水から学べる憩いの場として活用できる楽しい施設も望みたい。

全4回にわたり研修し、とても勉強になった。

水道料金算定のしくみの見直しについて、提案する。現状の料金のしくみは、水道需要の増加に対応した算定方式になっていると思われるので、準備料金や管の口径、水量料金における逡増方式などを、需要の減少に対応した方式、つまり需要を増やす方向にシフトさせた方式に見直すことを提案する。

ただし、新市域での水道供給システムの合理化や数十年に1回の確率で予想される渇水対策、水の合理的使用等を踏まえた上での対応とすることは言うまでもないが・・・。

今、ガス、水道、電気といった公共料金が値上げされる中で、全国の政令指定都市中で下位ランクのわが新潟市の水道料金が、値上げどころか値下げの方向で安全安心安定的な水道供給に向けた努力が行われるとしたら、市民全員うれしいことではないか。

最後に、微力ではあるが、これから新潟市の水道事業を応援していきたいと思う。とてもよい研修であった。

- 1 従来のモニター会議等で出された質問・意見でたくさん出ていたものや基本的なものをモニター会議の最初に提示して欲しかった。(これらのものを「水先案内」で紹介しても良いのではないか。)
- 2 新聞折り込みチラシ方式で出されている「水先案内」を市報「にいがた」に掲載できないか。(市報は毎週日曜日に入ってくるが、「水先案内」はいつ新聞に入っているかわからないし、大量のチラシにまぎれて分からない。市民からすれば市からのお知らせと変わらない)

今回の見学先である日本海タワー（回転展望台）は以前に一度だけ家族4人で見学に行ったことがある。その時も見学している人は少なく、小学生の娘も「つまらないから嫌だ!」と言っていた。新潟のすばらしい街並みが見れるのだから、もっとみなさんが行きたくなるような興味をそそられるような工夫が必要だと思う。とにかくリピーターの方が少ないのではと感じた。

今回「新潟市の水道料金」の説明を聴いて、2か月検針制の特例があることを初めて知り、とてもよい特例だと思った。でも新潟市水道局は下水道料金については徴収だけを行っており、詳細な内容は不明という話では利用者の多くは納得できないのではないかと考えた。せめてもっと利用者の方が納得のいく理由や説明をしてほしいと思う。

一年間水道モニターとして多くの研修会や施設見学会に参加し、このような活動の報告を多くの人へ伝えることができればよいと思っている。

あまり考えることもなく使っていた水道だが、水道水が出来るのにはたくさんの過程があることを勉強できて、とてもよい経験になった。

未来のためにも「食育」の取り組みのような「水育」もあるとよいと思う。

どのようにして水道水ができるのか。どうして節水しなければならないのか等、子供のころからもっと理解していた方が日々の生活に反映できると思う。小学校の社会見学や各種イベントでもっとアピールしていった方がよいと思う。

○ 「水道に関するアンケート調査」の結果

1 飲み水に不満の方について

本当に水道水を飲んでいるのか。水道水に対する認識・意識に疑問を感じる。山に登って山の清水を飲み、海外旅行でほとんど硬水のためミネラル水を買って飲んでいて。

2 水道水の本当の味を理解してもらうためのPRを

- 「柳都物語」の水を市民に味わってもらう機会を作ること
- 「動く市政教室」を積極的に活用し、水道施設の見学と水道水を飲んでもらうこと
- 水道モニターを広く応募して市民の水への関心を深めてもらうこと
- 日本と外国の水について、2月13日から12日間ニュージーランドを旅行する。ニュージーランドは軟水で、生水が飲めるそうなので、機会があったら報告したいと思う

モニターとして参加させてもらい、水に対する意識を高めることができた。

4 回の水道モニター活動によって、水道事業に対する理解が深まった。思っていたよりもずっとすばらしい管理をして、安全においしい水を供給していることがわかった。その都度質問に丁寧に答えてくれ、水道事業がより私達のものであることを実感した。

夏、水温が上がるとどうしても少しカビっぽく感じることがあるので、今以上に品質がよくなることを望む。

すごい設備をみせてもらい本当に勉強になった。

偶然、町内会の組長をやっていたので、もらった資料を回覧版に入れ回したところ、大変みなさんに喜ばれた。

水先案内は新聞に入ってくるので、新聞を取っていない人は見られない。今若い人達は新聞を取っていない人が多い。

今まで生活の一部としてのどが渴いたら蛇口を開き水を飲み、料理、入浴、トイレ等節水には気をつけてはいるものの何気なく水道水を使っていた。4 回の研修を終え、得た知識をこれからの生活に少しでも役立つように考えていかなければと思った。

あるテレビ番組で全国都道府県の水道水からのペットボトルの調査があり、「柳都物語」の美味しさの評価があまり高くなかったので、もっとおいしさを追求していくこともできるのではと思った。

今日は日本海タワーを見学した。水族館はよく行くが、日本海タワーは初めてである。上に行ってもまず驚いたのは、波がすぐ近くに見えたことだ。地形的には当然のことだが、突然の日本海の波にびっくりした。こんなに海が近くにある、港町だということを実感した。北前船がどうの・・・諸々のことが整理されてきた感じである。タワーの近くに住んでいる方は、米軍進駐のときの当所での事件？などの話をされた。足元がゆらゆら動く、ぜひ回転するところを見たい。

地元の方々は入場料が高いというが、初めてのものには500円、1,000円でも入場がしたい。毎日散歩途中に寄るには300円が適当かと思う。

日本海タワーはPR不足である。それとも私がゆっくり回るタワーとのちょうどよい年齢になったせいかもしれない。

漏水の話だが、我が家でも漏水があった。建築時点で3軒は一緒のところから水を引き込んだ。(3m道路から)現在は住宅地が広がり、6mの道路が前を通っていて、ガス、水道はみなさんここから取っている。漏水カ所は水道局側だったので代金は通常通りの金額で済んで、大変ありがたかった。

水道局のみなさまのご苦勞を理解して水を使い、汚さないように気をつけたいと思う。

広報活動の充実・推進について

1. このたびモニターに選ばれ、各種研修会に参加し、実情の見学、専門的な内容についての説明を受けることで、水道事業の実態、直面している諸問題、さらには問題点、課題に関する取組状況、将来への計画等相当細部について教えてもらい、素人、一般の市民としてたくさんの事が習得できた。おそらくモニターにならなかつたら、「水先案内」の広報誌を単に平板的にしか読んでいなかったと思う。
2. 一般の市民の立場（水道水を利用しているものとして）では特別の機会等がない限り「水先案内」を通じてのみ水道事業への関心やら知識を得ることができない。
3. 広報内容の充実
 - (1) 広報誌のサイズ、スペース、発行回数、掲載内容を総合して考えた場合、平易で内容的に分かりやすくかつ、関心をもっている事が適宜掲載されているかがポイントになろうかと思う。
 - (2) 場合によっては、読者すなわち水道水利用者からのリクエストも何らかの方法により求める等、双方向的に進めることも必要と思われる。またあるテーマをシリーズ的に（発行回数との関連もあるが）掲載する等もあると思う。
 - (3) 基本的には、当局の立場から利用者によく理解してもらいたいことと、反対に利用者（水道水利用者）は当局に対し今何を求めているのか、知りたいのかが合致することになることである。
 - (4) 最後に、掲載内容によってはある程度専門的表現にならざるを得ない。出来るだけ簡素・平易な表現で、適宜図表、イラスト、あるいは専門用語の定義、解説もあれば効果的と思われるが。

モニターに選ばれ、三か所の見学会に参加して、専門の方から詳しい説明を聞いて、水道事業が前よりも理解できるようになった。検針の2か月制の意味もよく理解できた。

私ども高齢者世帯では、飲料水といえば“水道水”で、水を買って飲む感覚は今一つ実感がない。若い人たちの様に“おいしい水”にはこだわりを持たない。それよりも安全な水が安心して飲める生活に感謝している。

当日の意見交換会での検針時の漏水に対する指導云々の話があったが、指導以前にその人の人間性に左右されると思い聞いていた。当方でも微々たる漏水を検針時にメーターの星が少しづつ動くのを見つけてもらい、また通常より料金の高いことを教えてもらい、業者から修理してもらった。

私どもに声をかけ、メーターボックスを双方で確認する。

その時間を考えたら、数件分の検針が出来たと思い感謝してお礼を言った。人間性である。

以後もモニター制度が続くと思うが、多くの市民が水道事業を正しく理解する為に、幅広い層の人たちが参加して勉強する機会をもてることを望む。

80万人の市民がいつも安心して安全な水が飲めるよう、関係者の方々の努力に感謝申し上げ、益々の事業の発展を祈念する。

水道事業と一言でいっても、この様に様々な分野が関係していることに驚いた。水道モニターとして活動する機会を与えてもらって、いままで気付かなかったこと、様々な仕組みを納得することができた。様々な施設見学もモニターならではの活動で、私はすごくよかったと思う。欲をいうなら、青山浄水場で官能検査の体験ができたので、信濃川浄水場では、講義だけでなく模型等で汚れた水がきれいになる様子を目の前で見ることができた。

また、先日の懇談会では、最も身近な水道料金の話も、口径別と書かれていても？だったが、口径によって何が有益になり、どのような料金になるのかなど、理解できた。

蛇口をひねればあたり前のように出てくる水ではなく、多くの人々のご尽力のおかげで出てくるかけがえのない水という認識に変わった。

この1年間で水道事業に対する関心は大きく変わった。

「日本海タワー」の入場料とコーヒーが無料で得した気分になった。

なかなか入る機会の少ない「信濃川浄水場」と「水質管理センター」が見学でき、質問に対する回答集まで作ってもらい、大変勉強になった。

年4回ほどのモニターでは回数に不満がある。隔月ではどうか。

モニターならば謝礼も1回1,000円で十分である。

各回を通じて水道局職員の皆様の熱心な講座（話）、対応には感謝する。

今年度のモニターで得た水道の知識、資料を今後に生かしていきたいと思う。